

「札幌市障害福祉施策に関するアンケート調査 回答用紙」

お名前 小倉 なほ子 記入日 3月13日

所属政党 市民ネット7-7北海道 選挙区 西 区

<アンケート回答記入欄>

(Q1～Q9は対応する設問の選択肢番号(例:①)を中欄に、その回答理由または、「その他」の回答内容は、右欄にご記入ください。)

Q1.	①	言葉から、可なり費した地域で生活するに必要の権利がある。その実現する施策も当事者の立場、当事者参加で、早急に可めべきである。
Q2.	①	大工の様な区分は、人々を分けるのは無理である。誰にも生活の場は必要で、必要がなければ、異なるものは当りである。
Q3.	①	障がい者、重い障害、大きな負担を強いられているというものは、不合理である。 (利用するサービスが少なくなる。障がい者の人権は)
Q4.	①	地域生活を実現する基本的な施策である。
Q5.	①	今後、さらに、障がい者、高齢者の地域生活を可めようとして、見直しが必要である。
Q6.	①	子どもの学びを保障するに、自治体の責務である。特に、
Q7.	①	民間企業の模範となるような取り組みをするに、自治体の責務である。 (障がい者の雇用が可められない)
Q8.	①	障がい者について、王様御座いますと、不平等な差別、苦境を強いられている現状がある。
Q9.	①	社会には多くの権利を保障しているところがある。また、「子どもの権利条約」 「障がい者権利条約」というように、人々の権利を保障するものがあり、 そこは重要である。特に、当事者を主とした条約をつくっていく必要がある。
Q10.	現代の行政の中での、このように、「障がい者」「高齢者」「子ども」「女性」といったような福祉施策となるべき。 しかし、本来必要とする必要なサービス(支援)を、このように、同じように、各施策の根底に、誰か一人に生きているように、其の場、その場の意見と、よくよく、重要であると思っております。	

よ、よろしくお願い致します。